

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-128385

⑬ Int.Cl.⁴
F 16 L 23/02識別記号 庁内整理番号
D-7181-3H

⑭ 公開 昭和63年(1988)8月22日

審査請求 未請求 (全3頁)

⑮ 考案の名称 フランジを用いた管接続部

⑯ 実 願 昭61-171314

⑰ 出 願 昭61(1986)11月10日

優先権主張 ⑱ 昭61(1986)9月17日 ⑲ 日本(JP) ⑳ 実願 昭61-141326

㉑ 考 案 者 藤 沢 勝 秀 神奈川県大和市深見西1丁目5番2号 日本ラインツ株式会社内
 ㉒ 考 案 者 高 橋 正 克 神奈川県大和市深見西1丁目5番2号 日本ラインツ株式会社内
 ㉓ 考 案 者 前 田 周 神奈川県大和市深見西1丁目5番2号 日本ラインツ株式会社内
 ㉔ 考 案 者 高 中 利 昌 神奈川県大和市深見西1丁目5番2号 日本ラインツ株式会社内
 ㉕ 考 案 者 多 田 義 隆 神奈川県大和市深見西1丁目5番2号 日本ラインツ株式会社内
 ㉖ 出 願 人 日本ラインツ株式会社 神奈川県大和市深見西1丁目5番2号
 ㉗ 代 理 人 弁理士 小山 欽造 外1名

㉘ 実用新案登録請求の範囲

第一の管の端部外周面に、一部をこの第一の管の端縁よりも突出させた状態で第一のフランジを固定し、この第一のフランジの第一の管と反対側開口部の内周縁に摺鉢状に傾斜した受面を形成し、第二の管の端部外周面に第二のフランジを固定すると共に、この第二のフランジから突出した第二の管の端部外周面又は上記第二のフランジに形成された短円筒状の基部外周面に外嵌した閉鎖環状のシール材が上記受面に整合する状態で、第一のフランジと第二のフランジとを互いに整合させ、両フランジをボルトとナットとにより接合する事によつて、第一、第二の両管を気密を保持した状態で接合する、フランジを用いた管接続部に於いて、上記第一のフランジに形成した受面と整合するシール材と第二のフランジの基部の先端部との少なくとも一方に、上記受面と密接する円錐面状の傾斜面を、第一、第二の両フランジの接合に先立つて予め形成した事の特徴とする、フランジを用いた管接続部。

図面の簡単な説明

第1図は本考案のフランジを用いた管接続部の第一実施例を示す半部縦断面図、第2図はこの管接続部に組み込むシール材を形成する状態を示す部分拡大断面図、第3図は第二実施例を示す第1図同様の図、第4図は第三実施例を示す部分拡大縦断面図、第5図は互いに捻れた位置関係にある管同士を接続する状態を示す略側面図、第6図は従来構造の第1例を示す第1図同様の図、第7図は同第2例を示す縦断面図、第8図は使用するシール材の1例を示す部分拡大縦断面図、第9図はボルトとナットとを不均等に緊締した状態を示す第7図同様の図、第10図は第一、第二の両フランジの間でシール材の一部が強く挟持された状態を示す第9図の左半部に相当する図、第11図は強く挟持される事によつて変形したシール材を示す第10図のA部拡大断面図である。

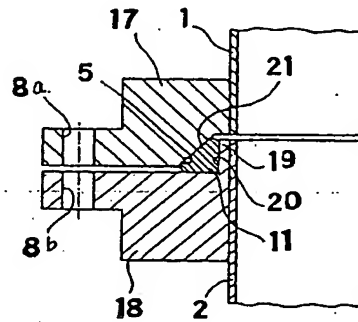
1：固定側排気管、2：接続側排気管、3、4：フランジ、5：受面、6：嵌合面、7：シール材、8a、8b：円孔、9：第一の管、10：

実開 昭63-128385(2)

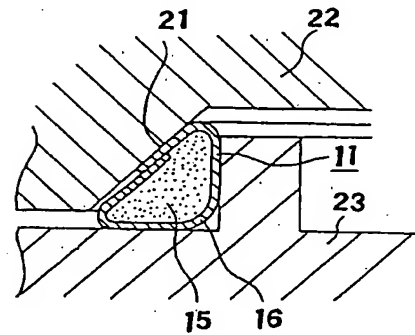
第一のフランジ、11：シール材、13：第二の管、13a：端部、14：第二のフランジ、15：耐火剤、16：金属薄板、17：第一のフ

ランジ、18：第二のフランジ、19：基部、20：段部、21、21a：傾斜面、22：上型、23：下型。

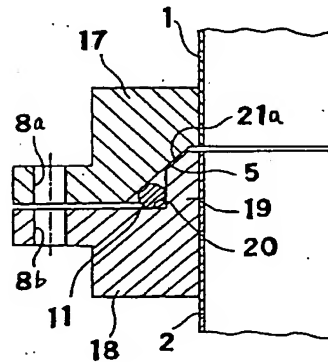
第1図



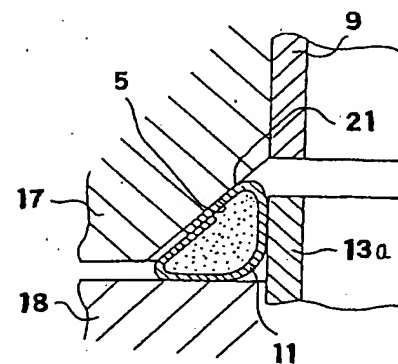
第2図



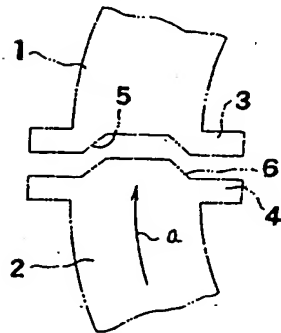
第3図



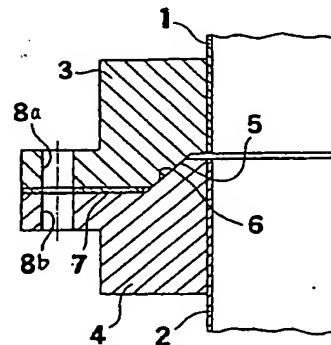
第4図



第5図

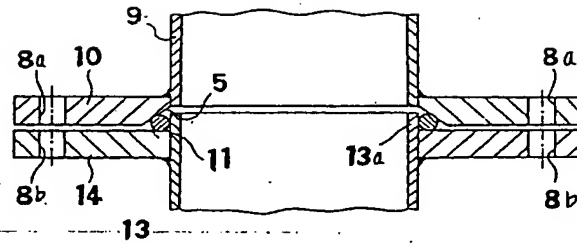


第6図

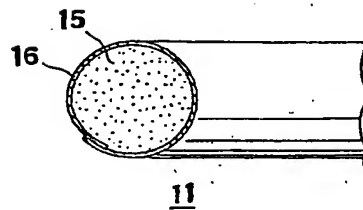


実開 昭63-128385(3)

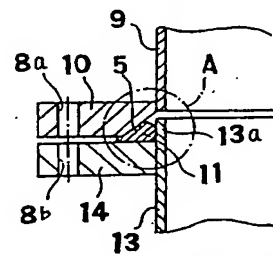
第7図



第8図



第10図



第11図

第9図

